

M152517 山田薫  
 M153245 岡田公一  
 M153845 守谷富士彦  
 M155955 稲垣和  
 M156105 河原洗亮

【発表題目】

『社会科授業力改善ハンドブック』 ビデオクリップ選定・製作

【発表構成】

1. はじめに
2. ビデオクリップ選定・製作意図と克服への手だて
3. おわりに

1. はじめに

本発表の目的は、『社会科授業力改善ハンドブック』の第1章～第3章にある，教師のつまずき場面のビデオクリップを提示するとともに，そのビデオクリップの選定・製作意図とそのつまずき場面の改善案を次回の発表に向けて提示することである。

2. ビデオクリップ選定・製作意図と克服への手だて

第1章から第3章までの構成は以下の通りである。

章－項	章タイトル	場面のラベリング
I－1	授業前の「教材研究」から考える授業改善	「教えたい事ばかり」
－2	〃	「想いをカタチにできない」
II－1	導入部の「学習課題」から考える授業改善	「そんなの関心ない！」
－2	〃	「そんなこと当たり前」
III－1	展開部の「教材活用」から考える授業改善	「量が多過ぎる」
－2	〃	「学習すれど受け身」

◇I－1「教えたい事ばかり」(自主制作ビデオクリップ(岡田))

(1)選定・製作理由

本場面は実際の授業場面ではなく，教材研究の段階でのつまずき場面であるため，ビデオクリップを製作するに至った。製作したビデオクリップ内容は以下のようなものである。

教育実習を直前に控える実習生が学習内容を実習先から提示され、教材研究をすすめるが、取り扱いたい内容が膨大になり、いざ指導案を書き始めると、指定された授業数に落とし込むことができず、実現可能な授業計画を構想することができず、悩んでいる場面である。

## (2)克服への手だて

- ・教師の教科観を内省させる（一般目標）

(例)「秀吉」を教えることに奔走するのではなく、社会科とはどのような教科なのか・社会科で何を学ばせるのか、について教師に内省させる。

- ・教科観の内省を踏まえ、教科指導における個別の目標を具体化させる。

(例)教師がもつ社会科の目標を達成するために、学習指導要領・教科書・独自教材・実践の状況から、改めて「秀吉」から何を学ばせたいのかを構想させる。

## ◇Ⅰ-2「想いをカタチにできない」(自主制作ビデオクリップ(山田))

### (1)選定・製作理由

本場面は、教師の設定した目標を達成するための展開部になっていないことに起因するつまずき場面である。具体的には、学習課題「それらの都市問題はどのように解決すべきなのか」への最終的な答えが、これまでの事例そのものであり、学習課題に適した答えになっていない。そのつまずきの場면을再現したビデオクリップの内容は以下のようなものである。

学習課題に都市問題の解決策を考えさせるように提示し、指導案通りに授業を進めることはできたが、目標を達成した手応えが得られなかった。そのため、何が悪かったのか、どうしたらよいか分らず、授業の改善策に悩んでいる。

### (2)克服への手だて

- ・学習課題と探求のプロセスの整合性を図る

(例)学習課題に向けて、まず子どもが解決する対象となる都市問題を明確にし、その問題を解決するための手がかりとなる事例を踏まえて、どのようにその問題を解決すべきかを考えさせるような、探求のプロセスを構想する。

## ◇Ⅱ-1「そんなの関心ない!」(都市問題)

### (1)選定・製作理由

導入部で学習課題「それらの都市問題はどのように解決すべきなのか」を設定しているが、これを設定するまでに見てきた 4 つの資料が子どもの関心からかけ離れたものになっており、子どもにとって身近な課題として感じられず学習課題が成立していない。

## (2)克服への手だて

- ・学習内容に関する子どもの既存のイメージから疑問を更に引き出す。

(例)福山市周辺のシャッター街化など身近な都市問題から他地域の都市問題へと視点を移行させる。

- ・子どもの学習対象に対する心理的距離と物理的距離を近づけることによって子どもに当事者意識を持たせる。

(例)スラム街で生活する同年代の子どもの写真を提示する（心理的距離）、広島市の交通渋滞の写真を提示する（物理的距離）

## ◇Ⅱ-2「そんなこと当たり前」 「信長・秀吉による全国統一」

### (1)選定・製作理由

導入場面で秀吉の出身地や天下統一に関する表面的な事実の確認しかしていない。つまり、子どもにとってごく当たり前の話をしているに過ぎない。そのため、子どもが持っている知識（既有知）に揺さぶりをかけることができず、その後の学習活動が受け身になってしまっている。

### (2)克服への手だて

- ・子どもがそれまでに獲得してきた知識や思い込みを揺さぶる問いを投げかける。

(例)「ほかの戦国大名もいたのに、なぜ秀吉が天下を統一できたのだろうか？」（既有知）

「秀吉は本当に天下統一していたのだろうか？」（既有知）

「秀吉が天下統一できたのは信長の後継者だったからなのか？」（思い込み）

## ◇Ⅲ-1「量が多過ぎる」 「江戸時代の農業と特産物」

### (1)選定・製作理由

指導案上からも資料を多用していることが見て取れる上に、各資料あたりに費やす時間が短い。つまり、情報を視覚的に捉えるためだけに資料を扱っており、また資料が精選できておらず、不要な資料を多用してしまっていると言えるのではないか。

## (2)克服への手だて

- ・1つの資料から複数の見解を引き出させる。

(例)横山華山「紅花屏風」<sup>1</sup>→左の方に米俵が見えるため、年貢を納める準備を風景ではないか。川で生産物を洗っているのではないか。右に赤いもの(生産物)を干している。左奥に赤いもの(生産物)が積み上げられている。馬が米俵を運んでいる。

- ・複数の資料を比較する中でその時代の特色を引き出させる。

(例)「開発された最新農具を使う農民」「紅花屏風」<sup>2</sup>「石高の変化の様子」を比較→江戸時代の農業の特色とは、江戸時代の農具の開発により、米の生産効率が上がり、商品作物を作る余裕が人々の間に生まれた。

## ◇III-2「質が単調すぎる」(自主制作ビデオクリップ(稲垣))

### (1)選定・製作理由

本場面は、教師の用意した資料につまずきが見られる場面である。しかし、多くの教師は資料を読み取らせる単調な授業の問題点を自覚しており、研究授業では現れ難い場面であった。そのため、ビデオクリップを作成するに至った。そのつまずきの場면을再現したビデオクリップの内容は以下のようなものである。

大日本帝国憲法と日本国憲法の資料を生徒に提示し、当時と現在の日本の政治制度の違いを捉えさせようとしたが、提示した資料は条文をただ羅列しただけのものであったため、条文を一つ一つ確認するだけの展開になってしまい、生徒の学習に対する意欲を低下させている場面である。

### (2)克服への手だて

- ・社会現象を概念的なモデルを通して理解させる。

(例)条文を一つ一つ読み取らせるのではなく、読み取った情報をモデルで表し、大日本帝国憲法下と日本国憲法下の双方の政治の仕組みを捉えさせる。

## 3. おわりに

本発表では、『社会科授業力改善ハンドブック』の第1章～第3章の教師のつまずき場面のビデオクリップとその改善案を提示した。次回の発表では、今回の発表をふまえて教師のつまずきに対する教師教育者の助言や、その場面での具体的なハンドブックの活用方法について提案したい。

---

<sup>1</sup> [www.thm.pref.miyagi.jp](http://www.thm.pref.miyagi.jp) 最終閲覧日：7月23日

<sup>2</sup> 同上